

暁の渚離りて

(昭和二十二年寮歌)

篠原昭壽君 作歌

竹内五男君 作曲

一
あかつき なぎさき
暁の渚離りて

ふるきもの光なきもの
底ひなき海に抛れば
いささけき水輪が呼ばふ
想ひ出の古りし仕草に
告ぐるなりいたき別れを

二
とこととは
永遠に絶ゆることなく
ひたひたと寄する波間に
万象のよみがへりしを
はぐくみしなげ忘れず
真実の旗幟を取り持ち
いゆくものひたあゆむもの

三
さあれ吾が幸は希望は
ふたたび会ふ事なしと
燃ゆる火の炎立ちに消えぬ
あるはただ宿命のみなる
さだめ故旅を行くなり
いたましきのちと云はめ

四
をぶね はまつた
小船もて浜伝ひ行き
火の神の荒ぶる山を
怖れみてかへりみすれば
たちまちに幻惑は裂け
くれなゐの血潮流れて
天地は夕焼けにけり

五
はてし うみ
涯知らぬ海さまよひて
い着きしは辛夷咲く丘
友垣とあつく結びて
いたましき宿命とかむと
ひたざまに立ちあへぐ夜半
静かなり星は降りつつ

六
あふ なみたこと
溢れ出る涙留めて
丘高く秀づる草の
友よ見よ紅に映ゆるを
歡喜に充てるそよぎを
春秋は移りて行けど
睦びつつ耐へてを行かな